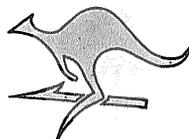




オーストラリア大陸を尋ねて (その1)



大町北一郎



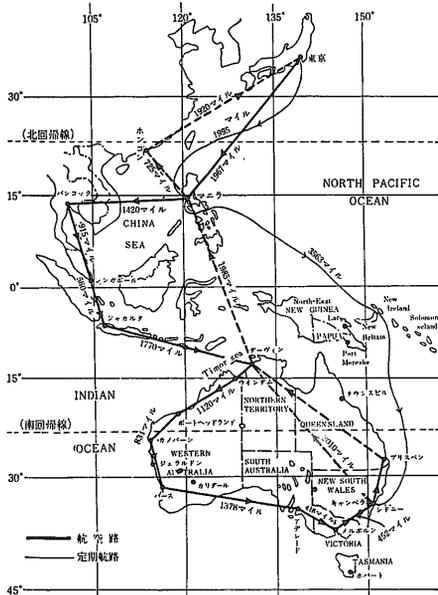
昭和37年9月下旬から11月上旬にかけて約40日間 西オーストラリアの鉄鉱床調査に出かける機会にめぐまれ さらに調査終了後は 稼働中の鉄鉱床見学をかねて オーストラリアを一周すること

ができた 短期間ではあったが ここにあまり知られていない オーストラリアの国内事情の一部を 鉄鉱床の紹介をかねてお知らせすることにした なお今回の調査に際して一方ならぬお世話をいただいた オーストラリア兼松K.K.および 兼松株式会社東京支社の方々に 感謝の意を表す

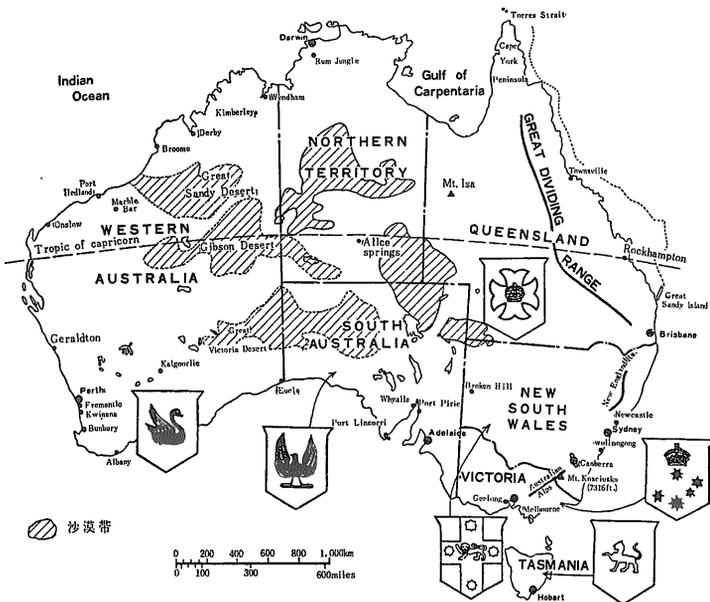
オーストラリアの地理

最近 日本もオーストラリアに対する認識と理解を深めつつあるが まだアメリカとかヨーロッパに比べると オーストラリアへ日本からの旅行者とか留学生も少なく その認識は決してじゅうぶんとはいえないようである。それはオーストラリアから毎年1,000人(総人口約1,000万人) 近くの観光客が日本にやってくるが 日本か

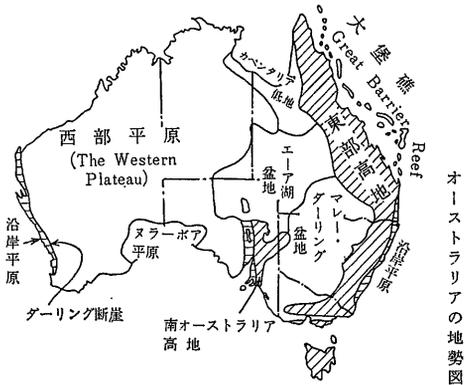
らオーストラリアへはわずかに100人から150人程度(日本の総人口約1億人)しか出かけないそうであるから 総人口に対する両国民の認識は格段の差があることを認めざるをえない。オーストラリア大陸は ヨーロッパ人によって発見されて以来約300年しかたっていない。そして昔から「知られざる大陸」「置き忘れられた大陸」「未知の大陸(Terra Incognita)」あるいは「南の大陸(Terra Australis)」などと呼ばれて 何世紀もの間探険されずに取り残されていた大陸であり また発見されてからでも 長い間イギリスの流刑囚植民地として また原料供給国として過してきたので 一般にオーストラリアといえば羊毛の産出国 あるいは流刑囚の子孫の住む国である位にしか考えられていなかったのである。第二次大戦後はその経済内容もかわり 従来の原料国から工業国へと転換しつつあるために 戦後の経済成長よりは 西ドイツにもおとらないものといわれ 最近では南半球唯一の近代工業国として注目されている。また今まではイギリス本国および英連邦諸国間との貿易を主体としてきたが 最近では日本を始めとして 英連邦諸国以外の国々との貿易についても 積極的に行なうようになってきている。このような意味においてオーストラリアも今や完全な独立国としての転換期に入りつつある



オーストラリア調査ルート図



オーストラリアの地勢図



オーストラリアの地勢図

といっても過言ではないものと思われる。

オーストラリアは地理学的には Australasia (オーストララシア) の一部でこの Australasia は Australia New Zealand New Guinea New Britain Solomon New Ireland などの外に 小数の島々からなるものの総称であって Australasia の語源については Charles de Brosses が1756年に「Histoire des navigations aux terres australes」という本を出版して オーストラリア大陸のことを初めてヨーロッパに紹介した中で出てくるといわれている。

ではオーストラリア大陸が どの位の範囲にわたって分布しているかという 南北の距離は約1,970マイル(約3,200km)で 南緯10°41'から43°39'にわたり〔北半球になおす 旭川(北緯43°40')からマニラ(北緯10°40')位までにおよぶことになる〕東西の距離は約2,400マイル(約4,000km)で 東経113°9'から153°39'にわって分布し 海岸線の総延長は12,210マイル(19,536km)におよんでいる。 その総面積は2,974,581sq. mi.(約7,704,000km²)もあって 日本の総面積(370,000km²)の約21倍にあたり アメリカ合衆国(アラスカ州とハワイ州を除く)またはヨーロッパ大陸(ソ連領を除く)とほぼ同じ位の面積をもち またブラジルよりやや小さい面積をもつ大きな大陸である。 このことは一般の日本人がオーストラリア大陸にたいして ただばく然と大きな国であると従来からいただいていたイメージとは はるかに違ったものを感じさせるであろう。 しかもこのように大きな大陸の約2/3は砂漠地帯で あとの約1/3のところ 東京都の総人口と同じくらいの 約10,508,189人(1961年調査 戦前の1933年は6,629,839人であった)位の人口しか住んでいないので その人口密度も1km²につき1.1人と世界でもっとも低く しかも生活水準は アメリカ並みの非常に高い国であるから 全くうらやましい国といわざるをえない。 人口密度の低い証拠の一つとして われわれが調査のた

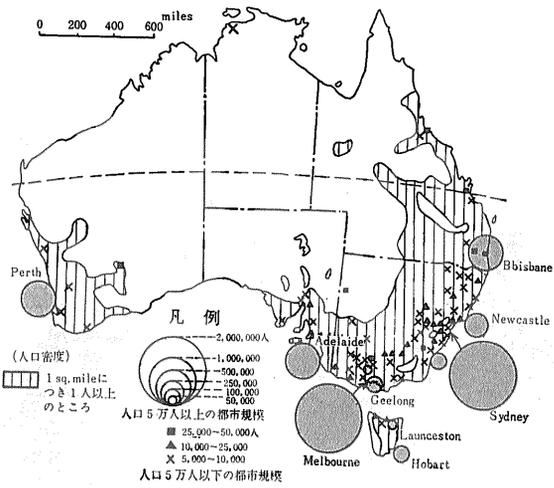
め 半日以上も西オーストラリア州北部地方のハイ・ウェイを平均時速70マイル位で走っていても 車や人に出会うことは全くまれで 自動車が故障でもおこしたらたちまち危険にさらされるおそれがある。 したがって 人口があまり少ないと別の意味の心配が生じてくる。たとえば 西オーストラリア州の砂漠地帯のハイ・ウェイを走るときには 車にガソリン 水食料と無線機をつんで 旅行をした方が安全というわけである。

国名	総面積	総人口	人口密度1km ² (1959)
	km ²	人	人
1.オーストラリア(本土のみ)	7,704,000	10,061,000	1.1
2.イギリス	244,000	52,157,000	214
3.日本	370,000	92,740,000	151
4.インド	3,263,000	402,600,000	123
5.アメリカ(アラスカ、ハワイを含む)	9,363,000	177,700,000	19
6.カナダ	9,976,000	17,442,000	2
7.ブラジル	8,514,000	64,216,000	8

(資料：日本国勢図会 1962国勢社版から)

上の表はオーストラリアと他の国との面積と人口を比較したものであるが かつてのイギリスまたはポルトガルの植民地で 現在は独立国であるインド アメリカ合衆国 カナダ ブラジルの諸国は オーストラリアと同様に 鉄鉱石を始めとして 豊富な地下資源にめぐまれているため ヨーロッパの諸国が これらの植民地を最後まで 手離したくなかったわけである。

次にオーストラリアが今日のような 連邦組織になったのは 1901年 で 現在は6つの州と 連邦政府直轄の2つの特別地域と属領(パプア)および信託地(Papua, New Guinea)にわけられ 1908年にはオーストラリア連邦政府の首都がキャンベラに定められている。そして 長い間イギリスの直轄植民地であったオーストラリアも1931年ウェストミンスター条例によって 英連



オーストラリアの人口密度

オーストラリアの州別・面積別人口比率

(1961)

州名	首都	総面積	比率	総人口	比率	独立の植民地となった年	実際植民開始の年
1. New South Wales 州	Sydney	309,433sq. mi.	(10.42%)	3,917,016人	(37.28%)	1786	1788
2. Victoria 州	Melbourne	87,884 "	(2.96)	2,930,113"	(27.88)	1851	1834
3. Queensland 州	Brisbane	667,000 "	(22.45)	1,518,828"	(14.45)	1859	1824
4. South Australia 州	Adelaide	380,000 "	(12.79)	969,340"	(9.23)	1834	1836
5. Western Australia 州	Perth	975,920 "	(32.85)	736,629"	(7.01)	1829	1829
6. Tasmania 州	Hobart	26,215 "	(0.88)	350,340"	(3.33)	1825	1803
特別地域名							
a. Northern Territory	Darwin	523,620 "	(17.62)	27,095"	(0.26)	初めは N.S.W.にぞくしていたがそのS.W.の所屬となり 1911年に連邦政府の直轄地となる。1911年に首都直轄地となる。キャンベラは1908年に選ばれる	
b. Australian Capital Territory	Camberra	939 "	(0.03)	58,828"	(0.56)		
(合計)		(2,971,081 ")	(100%)	(10,508,189)	(100%)		

(資料: Australia in Facts & Figures, No. 73 1962 より)

邦 (Commonwealth) の構成国となり 英本国と同一の地位をかくとくした。現在ではカナダと同様に英連邦諸国の中でもっとも重要な位置を占めている。けれどもキャンベラを始めとして各州の首都には現在でもエリザベス女王の代理としてイギリスから任命された総督が首相とは別に住んでいる。

この他に1906年にオーストラリア属領となっている **Australian Territory of Papua** (パプア) (首都 Port Moresby 面積 23.4万km² 人口 480,000人) と1946年以来信託統治地となった **Australian Trust Territory of New Guinea** (旧ドイツ領の North East New Guinea 首都 Lae 面積24.1万km² 人口 1,376,000人 の他に New Britain Solomon New Ireland Admiralty の小島からなる地域を含めている) があって連邦政府 (Federal Government) の連邦特別地域局 (Federal Department of the Territories) 所轄になっている。そして貿易 関税 政治 外交 軍事 郵政等および北部地域 (N.T.) 首都地域 (A.C.T.) 信託地ニュー・ギニア パプアは連邦政府で運営されているが 経済 鉄道 産業 警察 教育 社会施設等は各州別政府によって独立に運営されている。したがってその行政組織はアメリカ合衆国と似

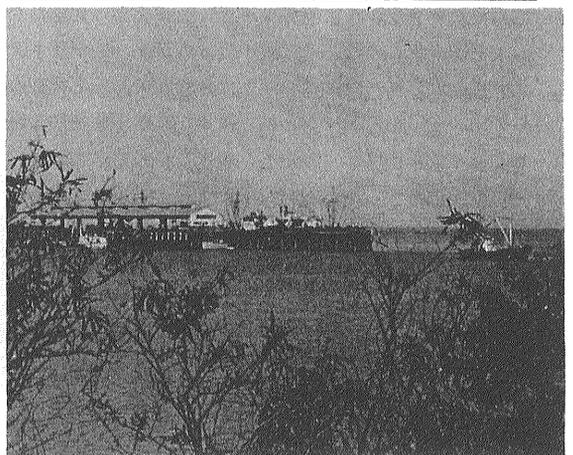
ているという。人口分布をみると肥沃な土地と気候に比較めぐまれている東オーストラリア (ビクトリア州 ニュー・サウス・ウェルズ州 クィンズランド州) の海岸から約80km 以内の都会を中心として総人口の約90%が居住し 残りの10%が砂漠を主とする暑いそして広大な地域にばらまかれていることは州別の人口表をみてもよくわかる。たとえば Northern Territory (北部地域) では 1km² 当たりには占める人口密度は 0.3人というところもある。また州別の首都人口を比較しても総人口約60%近くの590万人はこれらの臨海都市に集中しているし とくに年とったオーストラリア人

(1961年)

州別の首都	男	女	合計
1) シドニー市 (N.S.W.)	1,077,951人	1,105,280人	2,183,231人
2) メルボルン市 (Vic.)	949,850	962,205	1,912,055
3) ブリスベン市 (Q'ld.)	304,871	316,679	621,550
4) アデレード市 (S.A.)	289,467	298,490	587,957
5) パース市 (W.A.)	205,107	215,026	420,133
6) ホバート市 (Tas.)	57,337	58,595	115,932
a. ダーウィン町 (N.T.)	6,988	5,347	12,335
b. キャンベラ (A.C.T.)	29,463	26,986	56,449
(合計)	(2,921,035)	(2,988,607)	(5,909,642)



オーストラリアの北の玄関ダーウィン市(飛行機から)



ダーウィン港の棧橋

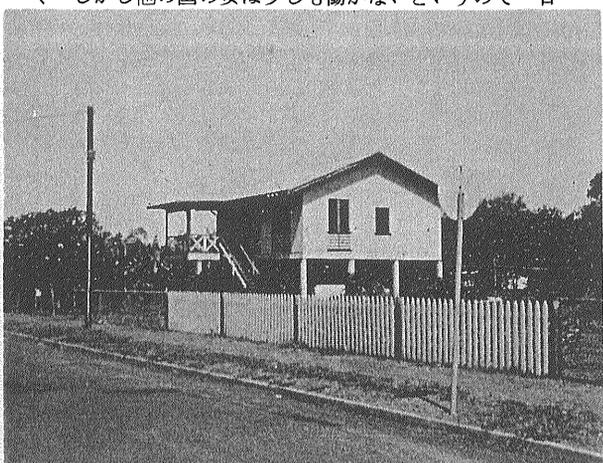
にいわせると 最近の若い人たちは 都会にあこがれて 田舎から年々都会に出てくるので 人口は増加する一方で この広大な大陸を開拓してゆく気持を持つ人が 次第になくなってゆくのは残念であるといっていた。そして真のオーストラリア人とは 開拓精神にもえている人 (Bush man 新開拓植民者) をいうので 都会に住んでいるような人は 真のオーストラリア人でないと憤慨している人もいた。私もこのことをきいて 都会に人口が集中するのは 日本ばかりの特殊現象ではないのだと思った。それでも人口密度が低いから 人口100万人以上の都市は2つしかなく 人口10万人以上の都市でわずかに8つであるが 人口2万人以上の都市となると オーストラリアの大部分の小都会は 入ってしまうようで しかもこれら大部分の都会は 東オーストラリア地域に分布している。そのおもなものをひろってみると 製鉄の町 Newcastle (N. S. W. 人口103,931人) 製鉄と石炭の町 Greater Wollongong (N.S.W. 人口131,764人) 鉛・亜鉛の鉱山町 Broken Hill (N. S. W. 人口31,267人) 金鉱の町 Kalgoorlie (W. A. 人口21,773人) 鉄山と造船所の町 Whyalla (S. A. 人口14,076人) 食料工場と車輛工場のセンター Bendigo (Vic. 人口40,309人) かつてのゴールド・ラッシュ時代のメッカ 金鉱町でしかもパララット事件で有名な Ballarat (Vic. 人口54,913人) 等があつて いずれも鉱物資源の開発で 大きくなった都市の多いのが目につく。

次に 人種の問題 についてみると 1901年連邦政府成立と同時にアジア人(中国人を主とする)の移民制限法(実際には1884年直轄植民地時代に実施された)をきめて以来 今日までいわゆる「白人濠州主義(White Australian Policy)」をとこなえて 有色人の移住を許していない。したがって 総人口の約95%は イギリス人であつた 外国人〔移民によって入ってきた白人 420,791人(1961年現在) 男246,403人 女174,388人〕と原住民〔1788年

頃は30万人いたといわれていたが 現在は約4万人位(46,638人, 1947年)〕である。このオーストラリアで 今までに登録されている諸外国人の内訳をみると もっとも多いのが ① イタリア人(130,608人)で ついで ② ギリシャ人(55,335人) ③ オランダ人(48,833人) ④ ドイツ人(44,132人) ⑤ ユーゴスラビア人(29,194人) ⑥ ポーランド人(21,449人) ⑦ ハンガリア人(15,249人) ⑧ オーストリア人(10,873人) ⑨ 中国人(7,014人) 移民禁止以前に入国していた中国人の子孫) ⑩ アメリカ人(5,291人) ⑪ ロシア人(4,845人)(1961年現在)の順になっているが この他に 小数ではあるけれどベルギー人 プルガリア人 デンマーク人 フィンランド人 フランス人 イスラエル人 ラトビア人 レバノン人 ノルウェー人 ルーマニア人 スペイン人 スウェーデン人 スイス人 ウクライナ人 日本人(大部分は戦争花嫁(約700人)で入国している)等がオーストラリアに移住している。これらの各国人は シドニー市の King's cross 繁華街にゆくとよくみゆけられる。とくに私が旅行中に目についたのは 鉱山労働者としてのイタリア人である。われわれの調査キャンプ地で働いていた労働者の1人もイタリア人で サルパドール(通称サムといわれていた)といい シシリー島出身で まだ23才位でオーストラリアにきて2年8ヵ月位しかたっていないといっていた。とても人なつっこい陽気な男で 夜になると大声で Love song をイタリア語で歌い ときどき私のテントにきては かん入りビールをのみながら 日本の娘は美人が多いそうだが本当かとか 東京は大都会だそうだが おもしろいところがあるかとかいった具合にイタリアなまりの早口英語で質問してくる。こちらオーストラリアの娘は 映画でみると美人が多いが 本当かという と本当だという もしおまえがイタリアにいったらきつと好きになるイタリア娘がたくさんいる としてイタリアの女は 結婚したら主人のためによく働く しかし他の国の女は少しも働かないといっているので 日



ダーウィン市内 電柱は木製だとアリが食べるのでレールを2本合わせて間にコンクリートを埋めて作ってある



一般住宅 暑いので1階は柱だけで2階は住居になっている

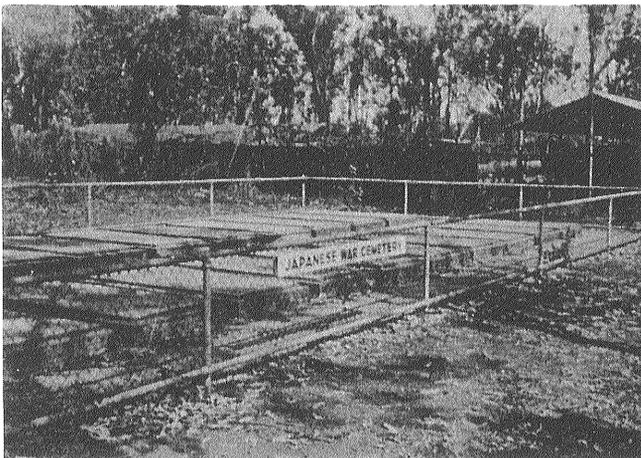
本の女の人もイタリアの女の人と同じだといったら おれも金をためて早く日本にいったら きれいな日本の娘さんに会ってみたいといっていた。

しかし私たちがイタリア人労働者と仲良くするのはオーストラリア人にとっては決して好ましいことではないようであった。それはイギリス人特有の習慣で自分と階級差のある身分のものは その区別を明白にしなければならない ところからくるもののように感じられた。したがって イタリア人移民は果樹園 果物店 魚店 魚料理店 床屋といった職業についているものが多く 都会の日曜日などは 動物園に家族連れで母国語を話しながら遊びにきている風景をよくみた。またドイツ人 オランダ人は南部の農場で働くものが多く 中国人はオーストラリア人が暑くて住みにくい北部直轄地域とか西オーストラリア州の北部地方の小都会で 雑貨店を営んでいるものが多く ダーウィン町あたりでは大きなスーパー・マーケットとか 貸自動車屋を営んでいる人もある。また南や東部オーストラリアの大都会に入ると 世界の国々でみられる特有の支那料理店 (Chinese Restaurant) を営んでいる人が多い。たとえば長いキャンプ生活が終わって初めてオーストラリアの都会パース市 (W.A.) に入ると まずとびこんだのが中国料理店 Pink Lotus (花蓮) Restaurant で 25 日間も肉食生活で日本食から離れていたわれわれは ガツガツと支那料理をたべた。とくにその時たべた Long Soup (支那そばのこと Short Soup はワンタン) の味は今も忘れられない。このようにオーストラリアはイギリスの植民地として発達してきた国であるから 重要な地位はすべてイギリス人 (アイルランド人 スコットランド人) によって占められ 移民で新たに入ってきた外国人は 上位の階級とか地位につくことは困難なようである。

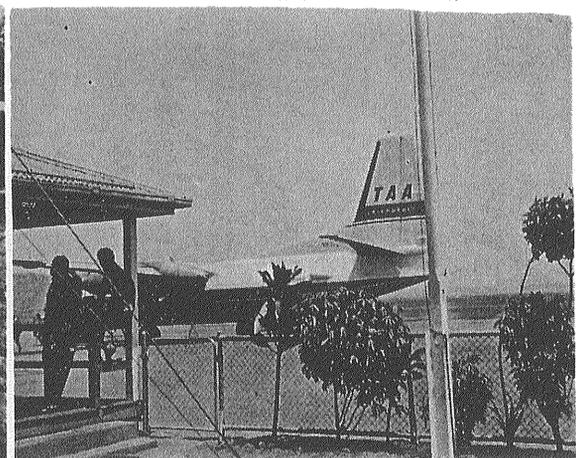
戦後はオーストラリア国内の労働人口が少ないことも手伝って 1947年以來災難民救護運動に参加して 一年

に10~16万人位の白人移民を引き受けている。たとえば 1961年には127,586人 (男65,920人 女61,666人) の移住者がオーストラリアに入っている。しかしそのうちの約56% (72,071人) はイギリス人で 他はイタリア人 (17,595人) ギリシヤ人 (8,041人) オランダ人 (5,610人) ドイツ人 (5,527人) ユーゴスラビア人 (2,794人) アメリカ人 (2,533人) ポーランド人 (1,481人) スペイン人 (1,423人) ロシア人 (1,207人) オーストリア人 (1,127人) の順で これらの人々を一般に「オーストラリア新人 (The New Australians)」と呼んでいる。そして新移民は 移民局の作った濠州英語の教育を受け 政府の指定した基本産業および公共の仕事 (伐木 ダム工事 製鉄業 ガラス工業 電力 水道 建築業 運輸業 工場建築) に2年間従事しなければならなくなっている。そしてこれらの仕事が終わってから 自分の好む方面の仕事を見つけて就職することが許されている。したがって各州の首府には善隣協会があり これらの新移民をオーストラリア人が個人的に世話しているようだ。われわれの調査キャンプ地で働いていたイタリア人労働者も そのうちの1人で一週 (5日間) 18~22ポンド (オーストラリア・ポンドの1ポンドは808円である) のサラリーをもらっているといっていた。

次にオーストラリアでは原住民族を **Aborigines** (アボリジン) といっているが この Aborigine は Ab-Origine (From the begining, 原始) の意味で 民族の固有名詞として 使用したのはギリシャ時代の 北部イタリアの山岳地方の一族にたいしていわれたもので 近世に入ってこれが原始民族の代名詞として一般に使用されるようになったので オーストラリアの原住民族の固有名詞ではないようである。この原住民族の起源は 一般に北方のアジア大陸から渡来して 先住民族のタスマニア人 (現在は滅亡したといわれている) を南方に追い出して住みついたといわれているが 顔付きは一見して類猿人に



ダーウィン郊外にある日本人戦死者墓
(昭和17年2月にダーウィン港を爆撃した海軍航空隊員をほうむってある)

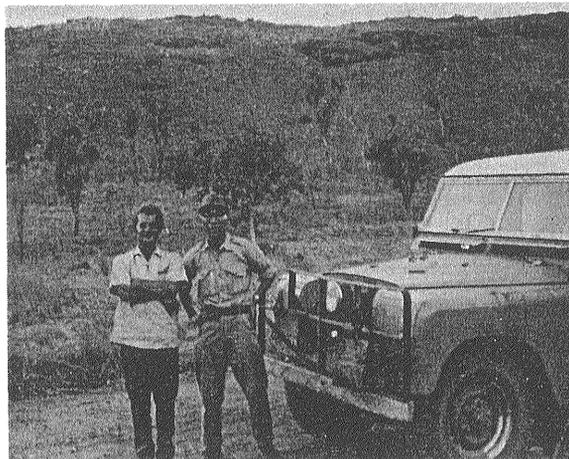


今回の調査地ウインダム空港

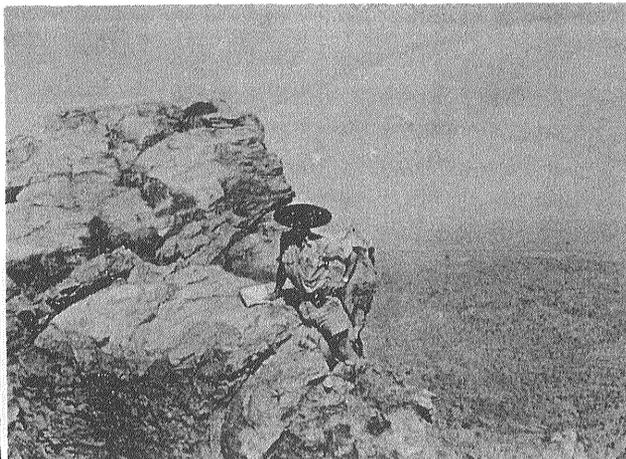
似ており 皮ふの色は 暗黒色で とても背が高く (平均 1.70mといわれている) 目は大きくてへこみ 眉毛の部分がややつき出している。そして鼻孔はひろがって 足はとても細長く ヒョロヒョロとした感じをあたえた。体質的には インドのドライド族 マライ半島のサカイ族に似ているようである。この原住民は一般に **Boomerang** (ブーメラング) (この名前はニュー・サウス・ウエلزの原住民の名前に由来して名づけられたものといわれている) という アカシアの木からとった板を への字型に切り端を削り落した狩猟用武器を使用するので有名であるがこのブーメラングも現在はもっぱら観光用 土産用として 木製 プラスチック製が作られている。現在原住民は北部直轄地域の Arnhem Land 地区 Katherine 地区 Daly 流域 Mt. Ziel 地区 Petermann Ranges 地区など政府指定の保護地域で毛布 食料品の補助をうけながら生活しているようである。われわれが鉄鉱床調査に入った西オーストラリアの北部熱帯地区では白人 大牧場主 (牧場の大きさは埼玉県ぐらいある) に雇用され 1 家族約50~60人の大家族をなして 白人居住者の周辺に住み もっぱら助手的役割 (男は牛の監視や牧場の雑用 女は洗たくや家事のサービスをする) をはたしていたが 一般の原住民は智能程度も低く 労働意欲もないので ブラブラして政府の保護をうけるものが多いようである。私が尋ねた Darwin 町 Wyndham 町でもはだしでブラブラしているのがみられたが 正直に言ってやはりそばでみると ちよっとこわい感じがした。それでも優秀なのは白人にまじって航空会社の送迎用バス運転手とか ハイ・ウエの道路整備用ローダーの運転手をしているという。この他に北部地域の熱帯牧場では白人の男と結婚している原住民の女の人があるかと思うとその逆の場合もまれにあるということだが 真疑のほどはわからない。またオーストラリア国内旅行中のジェット旅客機の中でみた新聞記事に 朝鮮戦争で有名をはせた唯一の原住民出身の陸軍大尉の記事が出ていたか

ら このような優秀な原住民中にはいるようだ。またポート・ヘッドランド (Port Hedland) の海岸ではオーストラリア人の案内で 原住民の祖先が石の上に彫刻したといわれている 古代文字とか絵 (主として魚の絵が多い) をみせられたが ここでも原住民は 市の郊外にまとまって トタン板のバラック住宅に住んでいるのがみられた。

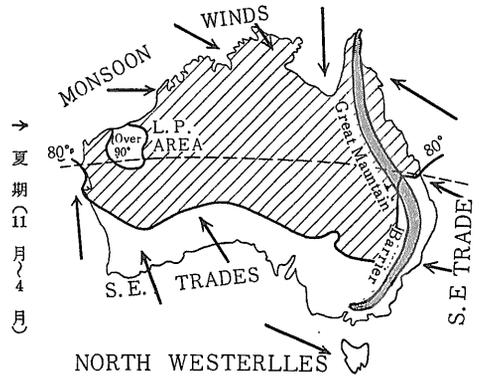
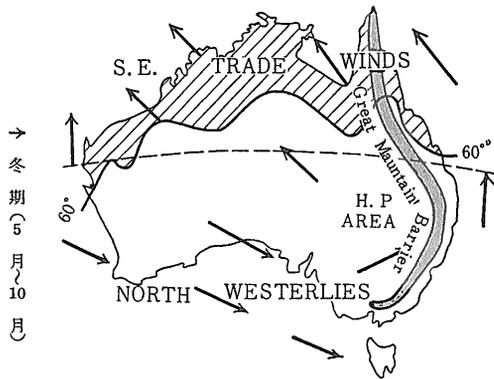
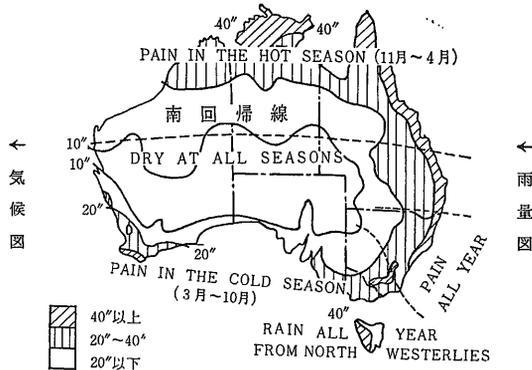
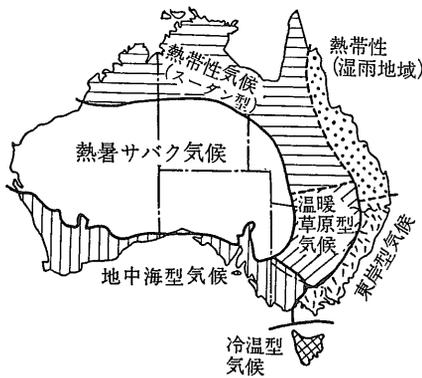
オーストラリア大陸の地形 他的大陸にくらべて比較的単純だといわれている。すなわち海拔 200 m以下の地域は 全体の 39%位であるが 500m以下の地域となると 全体の81%も占めているようであるからあとの15%は 500~600mで 2,000ft (約600m) 以上の山系は全体のわずかに 5%にすぎない。とくに西オーストラリア州では 600~1,500ft (180m~450m) の山系が全体の約50%を占めており 一般に西部高原といっている。また オーストラリアで高い山岳地形を示すのは東部海岸地域にかぎられ たとえば Australian Alps (オーストラリア・アルプス) といわれる 6,000ft (1,800 m) 以上の山々は ビクトリア州からニュー・サウス・ウエلز州にまたがって分布し The Pilot (6,002ft) **Mt. Kosciusko** (コシヤスコ山 7,316 ft でオーストラリアの最高峰である) Mt. Jagungal (6,758) を始めとして シドニー郊外の観光地でありスキー場として有名なBlue Mountains などの山岳地形は いわゆる東部高原の大分水山脈 (Great Dividing Range) とよばれる地形を構成している。また東部海岸には 著名な世界一の大堡礁 (Great Barrier Reef) がサンデー岬 (Great Sandy Island) から トレス海峡 (Torres Strait) までの約1,200マイル (2,400km) にわたって南北に発達しているので著名である。この他の海岸地形としては 私が調査に入った西部オーストラリア州の北部地方のキンバレー (Kimberley) 海岸は飛行機から見ると ややリアス式海岸となり ブルーム (Broome) 以南西海岸は隆起



ウインダムから調査地ボンベイス・ピラー・キャンプに向かう途中のジープ [右 大町技官・左 ロックのロイ氏 (イギリス人)] ジープの前にズックの水とうがぶらさがっている



気温48°Cの中でスゲ笠をかぶりボンベイス ピラー鉄鉱床を調査中の大町技官



海岸となり ポート・ヘッドランド (Port Hedland) 港付近は溺れ谷をなし さらに 南部にあるパース付近になると 沈降海岸となっているので ジェラルドン港 (Geraldton) とか フリーマントル港 (Fremantle) という立派な港ができています。また前述の西部高原と東部山岳地帯のあいだには 中央低地帯があり その一部には海面より低い湖もあり その大部分は砂漠となっている。とくに印象のこったのは 中央低地帯を飛行機でとんだとき 下にみえる湖の大部分が蒸発乾固して白い塩の湖となっているのがみられたことである。そして砂漠といっても内陸部では スピニフィクス (Spinifex) 草 でおおわれた砂丘と一般に Gum tree (ガム・トリー) という白い樹木が Spinifex の中に立っているのが普通で このガム・トリーは ユーカリ科 (Eucalyptus) で 中にはボトル・トリー (Bottle tree) という幹の太った奇妙な樹木がみられ これは African Baobab tree というもので北西オーストラリア特有の木らしい。また西オーストラリア州の西海岸から南部パース市付近になると アカシア科 (Acacia) の Mulga (ムルガ) Brigalow (ブリガロー) が多くなる。

この Spinifex 草は一見芝草の大きくなったようなもので先がとがっていてさわると とてもいたく またささると 先の1cm位のところがおれて ちょうどとげが

ささったようになるので 調査中は暑いのをがまんして 長ズボンをはかなければならなかった。また Bush fire (山火事) の危険とか 調査するのに不便なときには この Spinifex に火をつけて焼き払うのであるが このようなかれくさ雑草でも一度火をつけると たいへんないきおいで燃えひろがる。それはこの Spinifex 草にもすごい油性があるからで 手をふれるとべとべとし 燃える時には黒い煙をあげ 夜間などは実に壮麗な山火事風景となる。しかもこの草は焼き払っても2週間位で また青々とした新しい芽をだし この暑い水もない砂漠の中から成長しているさまをみると その生命力の偉大さに感心させられた。

動物としては 他の大陸にみられるような猛獣とか 毒蛇はほとんどおらず 大部分は草食動物である。猛獣といえは 野生のカンガルー (Kangaroo) ろば (Donkey) エミュー (Emu 牦鳥に似た巨鳥で オーストラリア特有のものらしい) 野生の犬デンゴ (Dingo 秋田犬によく似た犬で土人によってアジアから持ちこまれたといわれ 余り大きくない。これは去年オーストラリア政府から浩宮さまに献上されて有名になった) 位のもので 別に人間に害を与えない。しかし夜のキャンプでデンゴの遠げえをきくのはあまりよい気持ではなかった。カンガルーは日中は

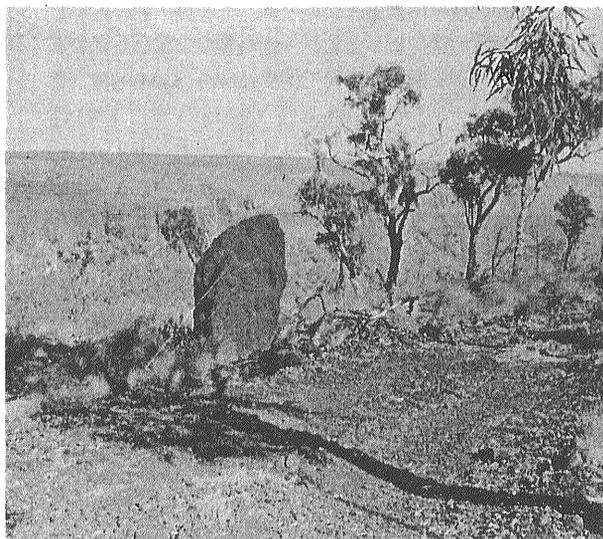
あついで洞穴の中にかくれているが 夜になると食料さがしに出てくるらしく 夜ジープを走らせているとヘッドライトめがけて とんでくることがある。また日中山道をジープで走らせていると ときどきみかけるが おそろしく足の早い動物で 写真をとるひまも与えない位でオーストラリア人にいわせると 時速30~35マイル位だというから 野生のカンガルーは中々みられないのはむりもないと思った。このカンガルーの毛の色は 褐色 灰銀色 黄褐色等がみられる。

キャンプ生活では カンガルーの肉もたべたが あまりおいしいものではなかった。しかしその尻尾のスープは褐色で油こい たいへんおいしいもので ぞくに「Kangaroo tail soup」と称して QANTAS 航空とかレストランなどの夕食のスープに出てくる。しかし北部の熱帯地域にある牧場主たちは この野生のカンガルーとか 野生のろばは牛の大切な食料である牧草を食べてしまうので 原住民をつかって射殺している。そして 殺されると その肉を食べに鷹が どこからともなく舞いおいてくる。

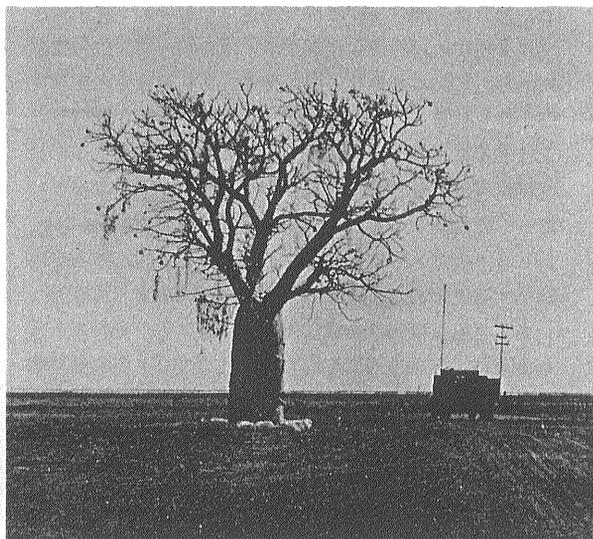
オーストラリアの原生哺乳類の大部分は有袋類で 動物園などでみるとモグラ リス ネコ イヌにいたるまで袋をもっている。その他にオーストラリアにだけしか生棲していないという 葉食類のコアラ・ベアー (Koala or Native Bear) という 可愛い動物がいる。これは現在保護動物とされているようで 私はシドニーの動物園でしかみられなかった。この動物の体長は わずか50~80cm ほどの小さいもので ユーカリ (Eucalyptus) の木のみにはしか生棲せず しかも食料はとくに選ばれたユーカリ科の一種類の木の葉しか食べず まためったに水ものまない動物だそうである。そして昼間は木の枝にまたがって寝てばかりいるなまけも

のである。何から何までオーストラリア式であるために この珍しい動物は カンガルーの毛をつけ コアラ・ベアーをかたちどった おみやげとしてつくられ盛んに売られている。

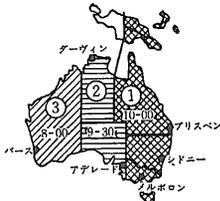
気候については オーストラリアは 昔から南半球の楽園といわれている位で とくに東海岸から西海岸の一部は地中海型の気候で 冬は暖かく雨が降り 夏は暑い乾燥しているために快適で しかも一年中太陽光線に恵まれているので あらゆる果実がよくとれるということだ。また中央オーストラリアは 南回帰線がそのほぼ中央部を横断し 中緯度高圧帯が大陸の中央にばん居しているため かなりの広い面積にわたって 超乾燥地帯(砂漠)を形成している。すなわち オーストラリアの気候は高緯度地方に陸地がないため 亜寒帯又は寒帯気候がなく 一般には北部海岸地帯に沿う熱帯気候 (Tropical Climate または Sudan (スーダン)型) と南部海岸地帯に沿って発達する温帯気候 (Mediterranean Climate (地中海型気候)) と中央部に発達する乾燥気候 (Hot Desert Climate) の3つに分けられ 一般には他の大陸にくらべて単純な気候だといわれている。そしてオーストラリアの四季は 日本の四季と逆で 11月から4月までは Hot Season (夏季シーズン 11月 12月 1月は夏で 2月 3月 4月は秋である) といいいわゆる日本という夏と秋にあたり 北部海岸および北東海岸に面した地域は Monsoon 期となるため 比較的雨量も多い (平均雨量は40^{mm}以上)。そして5月から10月までは Cold Season (冬季シーズン 5月 6月 7月は冬で 8月 9月 10月は春である) で日本の冬と春にあたり こんどは反対に南部海岸と南西部海岸が 雨量の多い季節になる (平均雨量は20ミリ~40ミリ位) しかし中央部地域は一年を通じてほ



調査地のあちらこちらで見られるアリ塚(高さ1~1.5mぐらい)



ビヤ樽のような木 当地ではボトル・トリーと呼んでいる



オーストラリアの時差

- ① EASTERN AUSTRALIAN(10.00)
- ② CENTRAL AUSTRALIAN(9.30)
- ③ WESTERN AUSTRALIAN(8.00)

とんど雨が少なく その平均雨量が20ミリ以下である。またシドニー付近とタスマニアは季節に関係なく一年中雨をとまなり気候が多いそうで やはり外出にはオーバーがあるようだ。私が行ったときはそろそろ冬季シーズンから夏季シーズン(Hot Season 又は Wet Season 春から夏になるとき)に入るころで キャンプ(調査したところは 南緯17°の熱帯地域で西部オーストラリア州 東キンバレー地域のポンペイス・ピラーで海拔1,800フィート位にある)地では朝6時30分位から急に暑くなり テントの中でねていられなくなる。そして11時30分頃になると90°F(32.22°C)~100°F位に達して 頭がくらくらする位に感じられ調査に歩いていても 10分おきに水を飲みたくなる。 といつて水をのんでも 全く汗も出ないほど空気は乾燥している。日本から到着した当時は話に聞いたほどの暑さではないと思っていたが 3日目には体がなれないのか 鼻血まで出てしまったので 日中の一番暑く感ぜられる12時から14時まで 日陰で体を休めることにした。なにしろ風もなく雨もふらないで 毎日頭上からカンカンと太陽が照りつけるので 暑くて考えるのもいやになる。またこんな暑いときに 午前中の調査でよごれたものを洗濯すると ハンカチ 日本手ぬぐいなどは 50秒~60秒位で完全にかわくし ワイシャツなど約10~15分位 作業ズボンなら20~30分位で完全にかわいてしまうから 午後はまたきれいなものを着て出かけられる。こんな状況だから 試錐機とか機械類などは午後になると皮手袋でもはめていなければ 下手に機械にさわったりするとやけどをする位に熱くなっている。だからこのような熱帯地域では水筒(Water bag)がズック製でズックの穴から外に にじみ出てくる水が蒸発するときの気化熱を利用して冷却するようになっている。さもなければ金属製の水筒などは中の水がたちまちお湯のようになってしまう。このズック製水筒は北部直轄地域とか西オーストラリア州の北部から北西部地域にかけて自動車 トラックの最前部に ぶらさげて運ばれている。この水は井戸からくみあげたもので 別に消毒もしていない水であるが 一度も下痢をしなかつ

たのは 多分人もほとんど住んでいないところだから病原菌も全く棲息しないためであろう。夜は18時すぎるとやや涼しくなったように感じるが テントの中のベッドに入ると やはり暑くてとても眠れない。これは日中テントが熱せられ 夜になっても温度が下がらないためと思う。それでも疲れているからいつのまにかねてしまう。しかし南回帰線以南の内陸部では冬の夜間には気温が氷点以下に下がるそうである。したがって気温の較差は海岸から内陸に入ると次第に大きくなり ダーウィン港あたりでは年較差約8°F メルボルン市は10°Fで内陸では 32°Fに達するそうである。私たちの調査が終わって 南部にある西オーストラリア州の首都パースに飛行機でとんだときのことであるが 32~33°C位の気温を示すウインダム町(南緯17°)から一べんに18~20°C位の気温を示すパース市(南緯30°)にきたときは上着とレインコートが欲しい位であった。これはいまままで暑いところで皮膚の毛穴がひらきっぱなしであったものが 急に伸縮できずにとまどったのではないかと思つたが 多分これも空気が乾燥していたためか 体の方はそれほどまいりもせず また熱帯から寒帯にきたという感じもなかった。

時差であるが 前に述べたようにオーストラリア大陸は大きいので 標準時は3つ用いられている。まず東から (1) Eastern Australia (東部オーストラリア)地区 (Queensland 州 New South Wales 州 Victoria 州10時)の標準時は3つの州に適用されシドニー ブリスベーン メルボルン ニュー・キャッスル キャンベラ等の東部諸市を含むものであり(日本の標準時間より1時間早い)(2) Central Australia (中央オーストラリア)地区 (Northern Territory South Australia 州 9時30分)は1つの州と1つの特別地域にあるアデレード ダーウィン アイリス・スプリング ポートアグスタの諸市を含むもので東部の標準時より30分遅れで (3)Western Australia (西部オーストラリア)地区 (Western Australia 州 8時)は西オーストラリア州にあるパース カルグールリー ジェラルドン ポート・ヘッドランド ウインダムの西部諸市を含むもので 東部標準時より120分遅れで標準時間が定められている。

オーストラリアに日本から旅行するおまなルートとしては ①神戸港から大阪商船の定期航路で 約10日間でシドニー港に達するか ②羽田空港から QANTAS 航空会社路線のジェット機で香港 マニラ経由の約14時間位でシドニー空港に達する2つのルートがあるが 前者の方が費用が安い。(つづく)

(筆者は鉱床部金属課)